

Misato ProCeedings

第51回：天文台建設中！

これ以降もたびたび、天文台を各社で取り上げて頂いているのですが、そこに使用されている写真は、今と変わらぬ足場の無い姿です。そういう意味でこの写真は貴重な一枚です。

佐藤 文隆



てよせて

復旧工事の最中で徒歩で鉄道を乗り継いでの旅であった。そんな神戸の景色を見ながら思いついたもう1つの価値観が、情報の道の整備だった。急峻な紀伊半島の奥深くに道路整備など、何年経っても進むわけがない。それなら、今、整備が始まったばかりの情報の道（光ファイバ）を電柱にはわせて、一気に情報の町として全国に名乗りを上げ、その発信基地のシンボルと天文台を活用すればいいのだと。幸い、当時の美里町の執行部の理解もあり、不可能に思えたインターネットの整備が天文台オープンに間に合い、情報の町として、全国で一番乗りができた。もっと便利なところに天文台が出来ていれば、私は、専門分野でもない情報の世界に手を出すことはなかっただろう。しかし、情報の世界と通じたことで、美里町を全国ブランドにし、また和歌山大学との交流も始まった。

あれから10年、祝国道昇格の看板は、重要な地域のコンテンツである柿をPRする看板に替わり、何年経っても完成することはないとも感じた国道も、どんどん整備され便利になっている。では、次の10年、新たな価値観は何が良いのだろうか？これは、今、天文台に残っている3人の研究員、いや、新しく生まれる紀美野町の町民の皆さんが考える宿題に違いない。もし、私がその質問をされたら、きっと「この地域独自の教育と文化の充実に力を入れ、それを新しい意味での観光資源として地域に還元すること。」と答えるだろう。天文台開設10年の今、皆さんも一緒に考えて欲しい。

私とみさと天文台のおつきあいは4年目を迎えます。最初は豊増氏の補助金事業のプロジェクトスタッフとしてお世話になっていたのですが、元々星が好きであったこともあり、天文台自体にあったという間にのめりこんでしまい、同時に様々な取り組みを実行される、元気な研究員の方々に感銘を覚えたのを今でも覚えています。

天文台では単なる技術だけでなく、仕事への姿勢など幅広く教えて頂きました。自分がこの時期に天文台と出会えたことは、私の人生に大きなプラスの影響を与えていることは間違いないと思います。本当に感謝しております。

近頃は仕事の都合上、天文台へはめっきり顔を出せる機会を失っているのですが、自分は天文台を支える一員と想い、自分ができることがあれば、協力しなければと常日頃から思っています。

天文台をめくっては市町村合併を始め、色々な荒波が次々と現れるのですが、いつまでもよき特色のある元気な天文台でいて欲しい、私にとっても心のオアシスであって欲しい、そう願っています。この度は10周年、本当におめでとうございます。

三田真也



左：イベントの裏方で働く三田くん



下：打ち上げで乾杯！岡本さん

みさと天文台10周年おめでとうございます！学生の時には、卒業論文作成のため半年ほど入り浸り、大変お世話になりました。あの時に教えて頂いたことが、教師としての仕事にも生かされています！（岡本 知佐美）

もう10回も美里天文台の空で織姫と彦星が会えたんですね。10周年おめでとうございます。（芝原 由果）

天文台オープン当初から関わってこられた研究員スタッフより届いたメッセージです。

中央上：尾久土正己さん（和歌山大学教授）、中央中：坂元誠さん（西はりま天文台公園主任研究員）。括弧内は現在の職名です。



左：巨大木星儀の作者、太田君
中：初代客員研究員、西端君
右：これから活躍が期待される、芝原さん

Message for you

みさと天文台では博物館実習で大変お世話になりました。短い期間でしたが、多くの方に星について伝えることができてよかったと思います。（太田 基春）

初めてみさと天文台を訪れたのが4年前になりますが、僕にとって天文台は、行くたびに様々な知識や技術を学べる魅力ある施設でした。その思いは今も変わりありません。これまでの10年がそうであったように、これからの10年、20年も、訪れた方に様々な角度から天文の楽しさを十二分に伝えられる施設であってほしいと願っています。（西端 一憲）

10周年、おめでとうございます。みさと天文台での毎日はつらいことも多くありましたが、思い出されるのは刺激的でたのしい時のことばかりです。思えば、いろんな人と出会って共に働き喜び合ったものでした。

私は平成7年7月7日みさと天文台オープン時からのスタッフでした。しかし、関わりはそれから1年以上前にさかのぼります。当時、勤めていた望遠鏡メーカーの担当者として松ヶ峰キャンプ場事務所（現在は美里情報センターに建て替え）が工事現場事務所になっており、毎月のように通っていました。小さな施設でありながら、都市計画でも有名な建築デザイナー・上田篤氏の上田設計事務所と大手建設会社・竹中工務店が請け負った現場でした。設計と現場に対して純粋に公開天文台としての機能を要求するのには胃の痛む思いをしたこともありましたが、それだけに天文台が無事に完成したとき、喜びというよりもむしろ安堵感が大きくありました。

運営体制について相談も受けていた行きがかり上、尾久土正己台長、田中英明研究員と共に、みさと天文台のスタッフとなることになりました。落ち着くまでもなくオープンがすぐに迫ってきます。ちょうど10年前、尾久土台長が前任地で編集するオープン記念のMPC第0号に載せる冷却CCDカメラ画像（M13、M27）を撮影するため何日も田中研究員（現情報センター）と共に徹夜したこともありました。

オープン当初は天文台研究員以外にも事務系の職員が4名配置されていてにぎやかさがありました。いろいろわがままも要求したりして困らせたこともあったとおもいますが、お客さんに気持ちよく来て頂けるようにプラントナーへの花植えをみんなで行ったりと、とても楽しい仕事をさせて頂けたように思います。

みさと天文台は日本一の望遠鏡を備えた天文台として有名になりましたが、それを祝うかのように次々と天文現象が訪れました。95年の土星の輪消滅、96年の百武彗星、97年のヘルボップ彗星。大出現は2001年にお預けになったものの、98年にはしし座流星群の大出現が期待されていました。これらの大天文現象を一目見ようと多くの方が美里町に訪れました。また、1995年はインターネッ

：秘蔵ショット！

イベント終了後、つくった舞台を片づける前にみんな（尾久土、豊増、森谷）で一曲…。



：懐かし一枚。

1998年新年号に掲載された御挨拶用集合写真。



メッセージを送ってくれた人たち以外にも、和歌山大学や大成高校美里分校をはじめたくさんの学生・生徒達が、博物館学芸員実習・研修だけでなく、アルバイトやボランティア活動など様々な形で、天文台に関わってきました。木下 智史、伊藤 純平、津田 宏果、吉松 智昭、太田 健治、尾藤 菜津、竹中 敦史、久野 光輝、越山 寛子、堀 美沙、石井 優子、五百蔵 雅之、田口 光、馬場 敦義、中井 みき子、山田 郁彦、古賀 克幸、小倉 隆孝、内藤 博之、小庄 竜司、竹中 敦史、荻原 文恵、高良 堅人、向井中 茂紀、源 拓也、古川 晋吾、山口 卓也、他。

オープン 天文台がオープンする前は、寝る間もなく準備に没頭しました。しかし、またオープンしてからは、本当に疲れました。連日の大盛況です。朝から夜中まで勤務し、みんなで良い汗がきました。


リピータの存在 どんな施設でもいると思いますが、リピータの存在がうれしかった。月一度の天文教室に来て工作し、夜は観望会に参加して夏は木星、秋は金星、冬はM42等色んな星を観望し、また来てくれる。

インターネット環境 インターネットとは、恥ずかしながらよく知らなかったと思います。当時は、Win95が出たばかりで？マックなんて知らないし、メール自体わかりませんでした。ネットサーフィン？「はあ？」って感じてましたが、覚えていくにつれはまりました。今では、仕事には欠かせないパソコン及びネットワークですね。

ネット中継 自分が勤務している頃、海外と中継を結び、アメリカだったと思いますが、星の勉強を海外の事業として取り入れて頂いたような記憶があります。いま考えるとたいしたことないですが、当時は進んでいただなと感じます。


流星群の日には、必ず雨！ 自分が勤務していた頃は、必ず雨で中止となりました。只、お客さんは雨が止むのをずっと待っておられた。

本日は雪！？ 天文台の大敵は、気候です。自然ですごいですよね！雨または、雪。天文台は、山の上にあるものですから、天文台は大雪でも国道におりと雨ってこともしばしばです。またお客さんからの電話に対応し、こちらは晴れてますよって言うてもすぐに曇ったり、観望会中に見えなくなるなんてしばしば！でもそこはお客さんに話が通じて良かった。（西田 幸弘）



左：1999年春頃の坂元さん（写真右）と西田さん。

早いもので僕が初めて天文台を訪れてから早8年が経とうとしているんですね。大学の天文サークルで訪れたのがきっかけで、研究員の方々と顔見知りになり、ある日突然「じゃ次の観望会、石川よろしく。」と半ば強引に勉強させていただく機会を与えてもらったのを、今でも鮮明に覚えてます。研究員さんにも受付のお姉さんにも大変かわいがってもらいました。確か8年前は今の4倍くらいのスピードでドームが開閉していましたね（笑）。今年の夏は博物館実習生として一生懸命働きますのでよろしく お願いします。



和歌山大学の学生さんが天文台へやってきた石川くんから届いたメッセージ。

6月の天文教室 ディープインパクト

6月の天文教室は、4月からみさと天文台客員研究員である和歌山大学教育学部の大学院生荻原文恵さんが、NASAによって7月4日に行われる「ディープインパクト計画」についての解説を行いました。ディープインパクト計画とは、地球を約5年半の周期で周回している彗星



写真：ディープインパクトの瞬間
(画像提供:NASA)

「tempel1(テンペル1)」を調査するために、人工衛星を打ち上げ、その人工衛星から、「インパクト」と呼ばれる装置を発射し、直接、彗星に衝突させ、その彗星の変化や彗星核の組成を調べる計画です。荻原研究員は、その内容を参加者の方に、様々な手法を用いてわかりやすく解説してくれました。はじめは、何のことだかよく分からなかった参加者の方も、講義の最後には、興味深げな表情で、荻原研究員の話に耳を傾けていました。解説には、NASAが公開しているディープインパクトのシュミレーション映像や、手作りの人工衛星ペーパークラフトを用いたフライバイと呼ばれる人工衛星やインパクトの解説、また、7月4日現在の地球とテンペル1の場所を天文台に収まる距離に縮小して示すな

ど、イメージ的にも大変わかりやすい内容でした。また、天文教室の最後には、ディープインパクト計画の名前の由来をクイズ形式で質問し、その由来には参加者も「へえ～」と少し驚いた様子でした。ちなみに由来は、98年に公開された映画「ディープインパクト」からの命名だそうです。関連するWebサイトのURLを下にあげておきますので参考にしてください。
(飯島 輝久)



写真：模型を使って解説する荻原研究員

『NASAディープインパクト』

<http://deepimpact.jpl.nasa.gov/home/index.html>

http://deepimpact.umd.edu/amateur/where_is.shtml

『日本語ディープインパクト』

<http://www.nao.ac.jp/pio/200507deepimpact/>

<http://homepage2.nifty.com/turupura/new/2005deepimpact/menu.html>

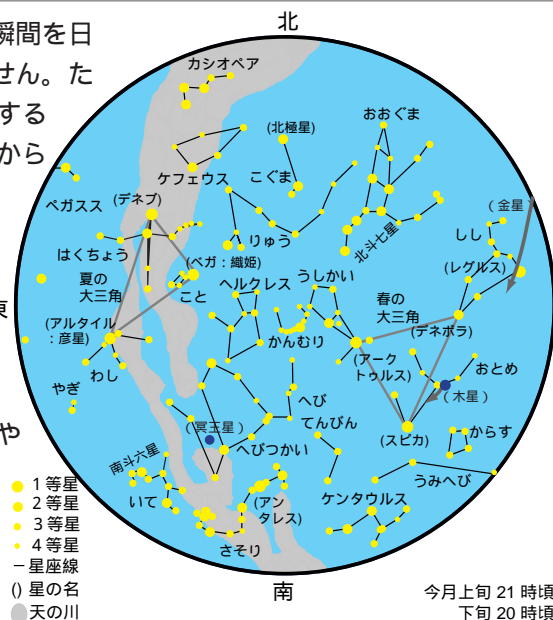
連載：今月の星空

7月に入ってもまだしばらくは梅雨のうっとうしい天気が続きます。また、夏に向けて寝苦しい夜が増えたりして気分もイライラしがちです。そんな気分も、晴れた日の夜に空をぼんやり眺めることで少しはましになるのではないのでしょうか。

えっ!?見えないの??

天文教室の欄にも書いた様に、7月4日にNASAによるディープインパクト計画が実行されますが、残念ながら、インパクトが彗星に衝突時間が日本時間の午後3時

前後となるためまさにその瞬間を日本からは見ることが出来ません。ただし、衝突後の彗星を観測することができるため、6月末から彗星を観測しておいて、衝突前後の彗星の様子を観察してみるのもよいかもしれません。テンペル1は7月初旬には10等程度の明るさで、おとめ座のスピカのそばにあるのでやや大きめの望遠鏡を用いると比較的観察し易いと考えられます。衝突後の彗星がどのようなのかから楽しみです。



日	天文現象
4日(月)	ディープインパクト
6日(水)	新月
7日(木)	小暑
9日(土)	水星が東方最大離角
15日(金)	上弦
18日(月)	海の日
19日(火)	夏の土用入り
21日(木)	満月
23日(土)	大暑
28日(木)	下弦
29日(金)	みずがめ座 流星群が極大

(飯島 輝久)

「あなたの星」が見頃ですよ！

友の会のみなさん、7月の宵の空には、次のHR番号の会員さんの星がよく見えますと考えられます。実際の位置や明るさは、ぜひ会員証と、おすすめ時期に同封される星図をご確認下さい。なお、星を探す際は双眼鏡があると便利です。お問い合わせは、お気軽にみさと天文台まで。

6435, 6661, 7000, 7183, 7396, 7557, 7602, 7688, 7949, 8072, 8153, 8248

Misato 天文ダイアリー (5/16 ~ 6/15)

先月末の火球はあちこちで目撃されたようで、天文台へも問い合わせが多数ありました。残念ながら研究員は見えていないのですが、全天カメラが捉えて(?)しました(右写真)。

出来事

5月
18日：メイストーム(5月の嵐)
21日：博物館学芸員実習生下見

26日：火球騒ぎ
6月
5日：天文教室
6日：望遠鏡整備休館(～7月1日)
団体

5月
19日：講演@Big U
6月
9日：和歌山東高(リーダー研修会)

みさと天文台通信

7月のイベント

天文台10周年記念イベント
7月7日(木)午後7時
講演：尾久士 正己(和歌山大学)
演奏：美里町大正琴クラブ
みんなで天文台の10歳の誕生日をお祝いしませんか。

7月の天文教室
「自然のエネルギーを体験しよう
～発電機の制作～」
7月17日(日)午後2時
講師：飯島 輝久(海南高校教諭)
参加費：500円(工作実費)
対象：小学生以上
定員：20名
事前に申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせください。

11日：講演@しづ市民大学

15日：日方小(団体下見)

報道・その他

5月
26日：朝日、読売、共同通信、
関西テレビ他(火球関係取材)
http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/science/comets_and_meteors/
1117162196(火球の画像)
6月
1日：大阪トヨペットプレス(天文台)

8月のイベント

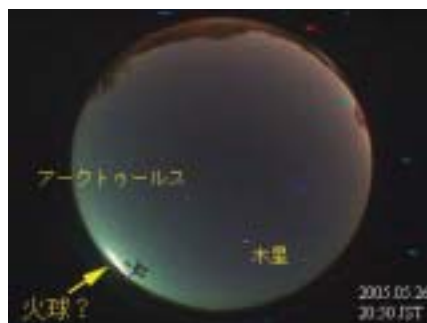
8月の天文教室
8月11日(木)
ペルセウス座流星群特別観望会
8月12日(金)午後10時

7月の観望会の予定

開始時刻

木、日、祝 7時30分から
金、土 7時30分、8時30分

全天カメラが捉えた火球らしき天体。



7日：関西ウォーカー(天文台)
10日：スクラム(天文台紹介)

今月は、2日(土)、8日(金)、9日(土)、15日(金)、16日(土)、17日(日)、22日(金)、23日(土)、29日(金)、30日(土)に観望会が2回行われる予定です。

7月の休館日

7月は、4日(月)、5日(火)、11日(月)、12日(火)、19日(火)、20日(水)、25日(月)、26日(火)を休館日とさせていただきます。